

発行—— 一般社団法人 日本統計学会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F 公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局

Tel & Fax: 03-3234-7738

編集責任一大森 裕浩(理事長)/小池 祐太(庶務理事)

中島 上智(広報理事)/城田 慎一郎(広報委員)高橋 慎(広報委員)

振替口座—00110-3-743886

銀行口座―みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

E	次			
1.	巻頭随筆:My 計算機ヒストリー …	川崎能典…1 9		第4回細谷賞授賞について 松田安昌…12
2.	第27回日本統計学会賞について	樋口知之…3 10	0.	2022年統計関連学会連合大会のお知らせ(第三報)
3.	第2回日本統計学会中村隆英賞につ	いて		飯塚誠也・小森 理・黒田正博…13
		樋口知之…4 11	1.	第4回「赤池メモリアルレクチャー賞」
4.	第18回日本統計学会統計活動賞につ	いて		受賞者および記念講演が決定17
		樋口知之…6 12	2.	ISI東京大会記念奨励賞の募集川崎 茂…18
5.	第18回日本統計学会統計教育賞につい	いて 13	3.	理事会・委員会報告 (2022年5月7日開催)18
		樋口知之…7 14	4.	社員総会報告20
6.	第16回日本統計学会研究業績賞につ	いて 15	5.	博士論文・修士論文の紹介27
		樋口知之…8 16	6.	新刊紹介27
7.	第15回日本統計学会出版賞について	17	7.	JSS Research Series in Statistics からの新刊情報 …28
		樋口知之…9 18	8.	受賞紹介28
8.	第36回日本統計学会小川研究奨励賞	について 19	9.	学会事務局から28
		樋口知之…10 20	0.	投稿のお願い29

1. My 計算機ヒストリー

川崎 能典 (統計数理研究所)

統計学はその始まりから、数字を主としたデータをハンドリングすることを運命づけられた学問であるが、どういう計算機環境で学び、また統計家としてキャリアを積むにつれてそれがどう変っていったかは、世代に大きく依存するところと思う。1984年に大学に入学したひとつのサンプルの経時的スナップショットを、この機会に描いてみたい。

私が東京大学経済学部の3年生に進学した1986年, 竹村彰通先生(現・滋賀大学学長)のゼミに参加が認められて数ヶ月後, 学部の教育用計算機端末は富士通 FM16 β に入れ替わった. その意味で, 私は「最初から PC」の世代である. スプレッ

ドシート上で移動平均を繰り返して経済時系列の 季節調整を行う、というようなところから私の データ分析の真似事は始まったのだった.

学部の卒業論文は、FM16 β に入っていたテラ/Queen というワードプロセッサーで書いた.これがページあたりの行数は固定という仕様で、ページをまたいだ行の移動はなく、上付き・下付き添字、分数などで数式を組版していくとどんどん行数を費消し、複雑な数式を入れたページは数行で終わり、ということもあった.それでも、小遣いで買えるのはブラザーピコワードがせいぜいだった時代、PC上で数式の組版ができるのは感動ものだった.

が、それを超える衝撃はすぐやってきた。日本語 TeX で組版された文書を初めて目にしたのは修士課程の1年時、1988年9月に箱根で開かれた鈴木雪夫先生の退官記念コンファレンスで竹村先生が配布された発表資料だった。

修士論文は LaTeX で書くことにし、友人からタ ダで譲り受けた NEC 9801-F2 (5インチFDD は両 方壊れていた) に3.5インチ FDD と40MB の SASI-HDD を外付けして、ASCII 日本語 MicroTeX をインストールした。40ページ程度の論文をコンパイルするにも相当時間がかかり、毎回「コーヒーでも淹れるか」となったのをおぼえている。

話が文書作成に傾いたので、計算に戻ろう.修士論文に含めるシミュレーションは、自分でFortranプログラムを書いて実行させなければならなかったので、必然的に学内の大型計算機の世話になった、当時船舶工学科で流体のシミュレーションを専門にしていた高校の同級生が計算機に非常に詳しく、日立 VOS3とエディタ ASPEN の使い方を懇切丁寧に教えてくれた、持つべきものは友である。

Fortran は自学自習の部分もあったが、当時東大経済に併任で来られていた北川源四郎先生(当時統計数理研究所助教授)の講義・演習から多くを学んだ、数年後に岩波書店から刊行されることになる教科書の原稿を読みながら、順にタスクを与えられてTSS端末を前にプログラミングしていった、今思うと、とんでもなく贅沢な時間である.

その傍ら、博士課程の1年から2年の間、私は日本銀行金融研究所で週2日ほどアルバイトをする機会に恵まれたが、金研には東芝J-3100シリーズのラップトップ機が複数台置かれていて、皆でシェアしていた、J-3100は80286で8MHz 程度のものだったと思うが、日本語/英語 DOS の切り替えができるように設定されていて、データ解析の時は英語 DOS に切り替えて、Estima 社の RATS で実証分析を行っていた。

統計数理研究所に助手で採用されたのが1992年, その頃は Sun のワークステーションが全盛で,少数のワークステーションに皆ログインして, Fortran や C で書いたプログラムを実行させたり、Splus や Mathematica を使ったりしていた. 夕方になると、教員も学生もどんどんジョブを投入して重くなったものだった.

そんな環境に馴染んで4年、幸いにも文部省在外研究員としてオランダ・ロッテルダムにあるエラスムス大学に長期滞在する機会を得た。そこで衝撃を受けたのは…誰も Fortran なんか使っていない、ということだった。教員も大学院生も、プログラミングはほぼ GAUSS、実証分析系だとMicroTSP かその後継の EViews であった。郷に入りては郷に従えで、新品の Pentium 133MHz 機を前に最初の数ヶ月を GAUSS 習得に費やしたが、これは金研での RATS 同様、後年自分の共同研究対応力を支えるスキルとなった。

在外研究員として旅立つ直前、統数研にとって初の並列計算機 IBM SP2が導入された。自分がMPIを勉強し始めたのは帰国後だったが、既に同僚の佐藤整尚氏(現・東大経済)は SP2を使いこなしていて、なにかというと相談に乗ってもらった。とはいえこの時代、分散メモリ型の SP2は位置的にはサブシステムで、メインのスパコンは共有メモリ型だった。今では分散メモリ型が主流である。

デスクサイドに話を転じると、90年代終盤は Alpha チップに優位性のある時期もあったが、総じて Intel 系のクロックスピードは順調に伸長していき、リプレイスする度に性能向上を実感できた. 初の1GHz到達は、2001年12月に導入したAMD Athlon だった.

計算機の性能向上を体感できたのは、Pentium4 3.2GHz あたりまで、という気が個人的にしている。もちろん、計算に限らずアプリはどんどん重くなるので、CPUパワーはあるに越したことはないのだが、現代は「どうプログラムするか」「どんなアプリを使うか」にリプレイスの甲斐ありやなしやが依存すると感じている。

例えばFortranで書いたプログラムの実行時間を, 2013年頃の第4世代Intel Coreプロセッサ(Haswell) と比較的最近の AMD Ryzen Threadripper 3990X で 比較すると、所要時間は殆ど変わらなくて驚かされる. Single thread の実行能力は、ここ暫く顕著な向上はない、ということである.

紙幅も尽きかけているので、最後にひとつご紹介しよう. 統計数理研究所の地下には計算機展示

室があり、これまで研究に用いられてきた機器が 多数展示されている。見学ツアーの再開はコロナ 禍の終息次第であるが、まずはウェブサイトをご 覧いただければ幸いである。

https://www.ism.ac.jp/ism-tour/

2. 第27回日本統計学会賞について

樋口 知之(日本統計学会会長)

2022年度の日本統計学会賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名:宮川 雅巳 氏

略歴:1979年東京工業大学工学部卒業,1982年東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程退学,1982年東京工業大学工学部助手,1990年東京理科大学講師,1993年東京理科大学助教授,1994年東京大学助教授,1996年東京工業大学助教授,1999年東京工業大学教授,2016年東京工業大学工学院経営工学系教授,2022年東京工業大学名誉教授,現在に至る.

授賞理由: 宮川雅巳氏は、統計的品質管理を中心 とする応用統計学分野において、第一線で活躍す る研究者である. グラフィカルモデリングおよび 構造的因果モデルの方法論研究に関しては日本国 内のパイオニアとして、品質管理学・応用統計学 をけん引してきた. 品質工学分野に関しても, 統 計科学的観点から数多くの論文を執筆しており, 他の研究者・実務家の追随を許さない理論系研究 者である. 同氏の研究のスタンスは「現実問題に 応用できる(現実問題を解決できる)統計解析法 | の開発を目指すものであり、その目的を達成する ために, いち早く最先端の統計科学に目を向け, その普及・啓発・開発に貢献してきた研究者の一 人であると言える. このような応用統計学の発展 に対する多大な貢献は、日本統計学会賞にふさわ しいものである.

主要業績:

[1] Miyakawa, M. (1984). Analysis of incomplete data

in competing risks model. *IEEE Transactions on Reliability*, 33, 293-296.

- [2] Kuroki, M. & Miyakawa, M. (2003). Covariate selection for estimating the causal effect of control plans by using causal diagrams. *Journal of the Royal Statistical Society: Series B*, 65, 209-222.
- [3] 宮川雅巳 (1997). 「グラフィカルモデリング」, 朝倉書店.
- [4] 宮川雅巳 (2000). 「品質を獲得する技術―タ グチメソッドがもたらしたもの」. 日科技連.
- [5] 宮川雅巳 (2004). 「統計的因果推論―回帰分析の新しい枠組み」, 朝倉書店.

[2] 受賞者氏名: 駒木 文保 氏

略歴: 1989年 東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻修士課程修了, 1992年 総合研究大学院大学数物科学研究科統計科学専攻博士課程修了, 1992年 東京大学工学部計数工学科助手, 1995年文部省統計数理研究所助教授, 1997-1998年 デンマークAarhus大学理論統計学科, 英国Oxford大学統計学科客員研究員, 1998年 東京大学大学院工学系研究科計数工学専攻助教授, 2001年-現在東京大学大学院情報理工学系研究科数理情報学専攻助教授, 准教授, 教授, 2008-2018年 理化学研究所脳科理化学研究所脳科学総合研究センター学総合研究センター客員主管研究員, 2017年-現在東京大学数理・情報教育研究センター長, 2018年-現在理化学研究所脳神経科学研究センター数理情報学連携ユニットリーダー, 現在に至る.

授賞理由: 駒木文保氏は、理論統計学、とりわけ

ベイズ統計学の予測理論において顕著な業績を挙げてきた。同氏は統計的推測において予測分布の性能を評価することが大事であることを早い時期から見出し、漸近理論の枠組みでベイズ予測が最適であることを示した。このことは世界的に高く評価されており、その後のベイズ統計学の発展に大きく寄与した。また、「数理及びデータサイエンス教育に係る教育強化」事業の東京大学における実施主体である数理・情報教育研究センターのセンター長を務め、同氏のリーダーシップのもと、さまざまな地域における大学や産業界との連携も含めて、データサイエンス教育の発展が総合的に進んでいる。以上、同氏は統計学の理論研究ならびに人材育成において多大な貢献をしており、日本統計学会賞にふさわしい人物である。

主要業績:

- [1] Komaki, F. (1996). On asymptotic properties of predictive distributions. *Biometrika*, 83, 299-313.
- [2] Komaki, F. (2001). A shrinkage predictive distribution for multivariate normal observables. *Biometrika*, 88, 859-864.
- [3] Komaki, F. (2006). Shrinkage priors for Bayesian prediction. *The Annals of Statistics*, 34, 808-819.
- [4] Komaki, F. (2011). Bayesian predictive densities based on latent information priors. *Journal of Statistical Planning and Inference*, 141, 3705-3715.
- [5] Komaki, F. (2021). Shrinkage priors for nonparametric Bayesian prediction of nonhomogeneous Poisson processes. *IEEE Transactions on Information Theory*, 67, 5305-5317.

3. 第2回 日本統計学会中村隆英賞について

樋口 知之(日本統計学会会長)

2022年度の日本統計学会中村隆英賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名:若杉 隆平 氏

略歴: 1971-1986年 通商産業省, 1985年 同省通商 調査室長, 1986-1989年 信州大学経済学部助教授, 教授, 1988年 経済学博士 (東京大学), 1989-1992 年 通商産業省国際企業課長, 環境政策課長, 1992-2004年 横浜国立大学経済学部教授, 同学部長, 同 大学副学長, 同大学大学院国際社会科学研究科教 授, 1994-1997年 通商産業省通商産業研究所特別 研究官, 2003-2007年 総務省統計審議会専門委員, 2004-2010年 慶應義塾大学経済学部教授, 2006- 横 浜国立大学名誉教授,2006-2016年独立行政法人経 済産業研究所研究主幹、プログラムディレクター シニアリサーチアドヴァイザー、2007年 総務省 統計審議会委員, 2007-2012年 京都大学経済研究 所教授, 2012年 - 京都大学名誉教授, 2013-2015年 学習院大学経済学部特別客員教授, 2015年 新潟県 立大学大学院国際地域学研究科教授, 2017年 - 同

大学理事長・学長, 現在に至る.

授賞理由: 若杉隆平氏は、経済統計の研究及び関 連する分野の分析,理論,手法の発展において数 多くの顕著な業績がある. 同氏は、国際貿易・直 接投資の研究分野、研究開発と技術革新に関する 研究分野の両分野において、内外の経済統計、企 業別ミクロデータ、独自のサーベイによるデータ を駆使することによって実証研究に取り組み、企 業の研究開発投資と新技術の開発等のメカニズム を解明する上で多くの業績をあげてきた. また同 氏は、国際貿易・直接投資の分野での実証研究に おいて、日本の国際経済研究をリードする優れた 業績をあげてきたことによって高く評価されてい る. 同氏には研究業績に加えて、経済統計の実務 においても業績がある. 経済産業省「海外事業活 動基本調査 | 「外資系企業動向調査 | の両統計調 査の実施, 改善, 普及, 利用の拡大等の任務を担 い、実践的立場からも経済統計の発展に貢献して きた. 以上のように、同氏には経済統計の研究及 び実務並びに関連する分野の分析、手法等の発展

において顕著な業績があることから, 若杉隆平氏 は日本統計学会中村隆英賞の受賞にふさわしい.

主要業績

- [1] 若杉隆平 (1986). 「技術革新と研究開発の経済分析」,東洋経済新報社.
- [2] 若杉隆平 (2007). 「現代の国際貿易―ミクロデータ分析―」、岩波書店.
- [3] 若杉隆平(2011).「現代日本企業の国際化ーパネルデータ分析ー」. 岩波書店.
- [4] Wakasugi, R. Ed. (2014). Internationalization of Japanese Firms: Evidence from Firm-level Data, Springer.
- [5] Wakasugi, R., et al.(2019). Individual characteristics, behavioral biases, and attitudes toward foreign workers: Evidence from a survey in Japan. *Japan and* the World Economy.

[2] 受賞者氏名: 舟岡 史雄 氏

略歴:1976年 東京大学大学院経済学研究科理論計量経済学専攻博士課程単位取得退学,1981年 信州大学経済学部助教授,1989年 同大学経済学部教授,1992-2000年 同大学評議員,1998-2000年 信州大学経済学部長,2012年 - 現在 信州大学 名誉教授,2012-2017年 (一財) 日本統計協会専務理事,その他一橋大学経済研究所客員教授,経済企画庁経済研究所客員主任研究官など

【政府審議会 委員等の活動】2007-2009年 統計委員会委員,1998-2007年 統計審議会委員,2003-2009年 国土審議会特別委員,2002-2007年 内閣府経済社会総合研究所アドバイザリーグループ委員,1997-1999年 学術審議会専門委員,1995-1996年 電気通信審議会専門委員等

授賞理由: 舟岡史雄氏は、大学院に在籍していた時に中村隆英教授の指導を受け、その後の研究の方向に大きな示唆を得ている。同氏は、中村教授が主査を務めた総務省統計局や大蔵省の研究会および著書の共同執筆等を通して、統計学は課題解決に資することに大きな役割を持つもので空理空論であってはならないとの薫陶を受けて研究を進展させてきた。同氏は各種のマイクロデータを駆

使して実証分析に取り組み、従来の通念とは異なる新たな事実を発見しマイクロデータの活用の有用性を積極的に発信した。それらの研究成果が高く評価されたことにより、政府統計の個票データの利活用の門戸が開かれる契機となったことに対する貢献も大きい。同氏は研究業績に加えて、公的統計の実務において優れた貢献があり、政府統計は公共財であるとの考えを確立し、我が国の統計の将来の指針を提示した。以上のように、同氏には経済統計の分野における実証分析および公的統計の改善・発展に関し多年にわたる顕著な業績があり、舟岡史雄氏は日本統計学会中村隆英賞の受賞にふさわしい。

主要業績:

- [1] 舟岡史雄 (1978). 「物価上昇と個人消費」, 『経済評論』. 日本経済評論社.
- [2] 舟岡史雄 (1986). 「企業統計」, 『日本経済と経済統計』 林周二・中村隆英編, 東京大学出版会.
- [3] 舟岡史雄・鮎沢光明 (2000). 「高齢者の同居 の決定要因の分析一家族の生活状況と保障機能 一」,『家族・世帯の変容と生活保障』, 東京大学 出版会。
- [4] 舟岡史雄 (2001). 「日本の所得格差についての検討」, 『経済研究』, 一橋大学経済研究所.
- [5] 舟岡史雄 (2003).「企業行動の多角化の実体とその成果―事業所・企業・企業グループについての実証分析―」、『講座ミクロ統計分析第4 巻企業行動の変容』松田芳郎・清水雅彦・舟岡史雄編著、日本評論社、
- [6] 舟岡史雄 (2008). 「各国の統計法制度とわが 国の統計改革」, 『社会・経済の統計学』, (21世紀 の統計科学 第1巻) 東京大学出版会.

[3] 受賞者氏名:作間 逸雄 氏

略歴:1978年 一橋大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学,1978年 一橋大学経済学部助手(特待生),1979年 専修大学経済学部講師,1982年 同助教授,1988年 同教授,2021年 同名誉教授,現在に至る.1984-2001年 統計審議会専門委員(経済指標部会,国民経済計算部会),

1994年 国民経済計算調査会議専門委員, 2004年 国 民経済計算調査会議委員, 2007-2009年 統計委員 会専門委員.

授賞理由:作間逸雄氏は、国民経済計算体系(以 下 SNA) を中心に経済統計全般に渡って多様な 分野で重要な学問的・実務的な貢献を行った. 1968SNAから脈々と受け継いできた国民経済計算 体系を引き継ぎながら、経済学全般に多様に展開 する上で不可欠な業績を築いた。2008SNAの際も、 大量にある新規用語の一つ一つを定義し、今日の 数千に及ぶ国民経済計算周辺分野の用語の翻訳や 定義は同氏によって成された. SNA の影響力は内 閣府にとどまらず、日本銀行、財務省、総務省、 都道府県と政令市の各部局など、SNA マニュア ルを通して同氏はこれまで数千人に直接・間接的 に貢献してきた. マニュアル以外でも実務上の概 念で、国民経済計算調査会議や統計委員会専門委 員も含めて数多くのアドバイスを通じて、日本の 国民経済計算の計算概念に重要な貢献をしてきた. 経済学における生産概念に関する一連の研究は. 同氏の代表的な研究成果となっている。さらに同 氏は、世界銀行・OECD による購買力平価 (PPP) プロジェクトを確立し、世界に根付かせたという

貢献も今日高く評価される.以上により,同氏は 日本統計学会中村隆英賞の受賞にふさわしい.

主要業績:

- [1] Sakuma, I. (1977). Closedness of convex hulls. Journal of Economic Theory, 14(1), 223-227.
- [2] 作間逸雄, 倉林義正 (1980). 「国民経済計算」, 東洋新済新報社.
- [3] Sakuma, I. et al. (1994). New index of R&D purchasing power parities for international comparisons. *Research Evaluation*, 4(3), 161-169.
- [4] 作間逸雄ほか (2003). 「SNAがわかる経済統計学」, 有斐閣.
- [5] Sakuma, I. (2013). The production boundary reconsidered. *Review of Income and Wealth*, 59 (3), 556-567.
- [6] Sakuma, I. (2015). Will the concept of goodwill go well with national accounting. *Eurona*, 1/2015, 51-65.
- [7] Sakuma, I. et al. (2018). The value added and operating surplus deflators for industries: The right price indicators that should be used to calculate the real interest rates. *Statistical Journal of the IAOS*, 34(2), 235-253.

4. 第18回 日本統計学会統計活動賞について

樋口 知之(日本統計学会会長)

2022年度の日本統計学会統計活動賞は、以下の団体に授与することが決まりました。

受賞団体名:データサイエンティスト協会

略歴:2012年11月 有志による新団体設立に向けた活動スタート,2013年「社会のビッグデータ化に伴い重要視されているデータサイエンティスト(分析人材)の育成のため、その技能(スキル)要件の定義・標準化を推進し、社会に対する普及啓蒙活動を行う.」「分析技術認定(レベル認定)などの活動を通じて、分析能力の向上を図るための提言や協力を惜しまない支援機関として、高度

人材の育成とデータ分析業界の健全な発展に貢献する」ことを目的として一般社団法人データサイエンティスト協会を設立. 現在に至る. 代表理事草野 隆史. 2022年1月幹事会員102社, 大学・研究機関・自治体会員9団体, 特別会員8団体.

授賞理由:一般社団法人データサイエンティスト協会は、データサイエンティストに必要となるスキル・知識を定義し、育成カリキュラム作成、評価制度の構築などを行っている。2021年にはデータサイエンティストとして必要なスキルの骨格を示したスキルチェックリスト ver.4を公開し、データサイエンス実務における統計学の重要性を示し

た. 本スキルチェックリストは大学・研究機関でのデータサイエンス授業のシラバス策定や企業のデータサイエンティスト育成において指針となっており、統計学の実社会への適用、応用に貢献している。 同協会が主催しているデータサイエンティスト養成講座や課題解決型人材コンテストなどにより、多くの企業が取り組む DX 推進におい

て、データサイエンス分野から統計学の重要性を 広く社会に示す役割を担っている。同協会のこの ような活動は、統計学及び統計を支える基盤の充 実・高度化を通じた研究・教育環境の整備に多大 な貢献しており、日本統計学会統計活動賞にふさ わしいものである。

5. 第18回 日本統計学会統計教育賞について

樋口 知之(日本統計学会会長)

2022年度の日本統計学会統計教育賞は、以下のように授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名: 林 兵馬 氏

略歴: 2011年 大阪教育大学教育学部教養学科数理科学専攻卒業, 2013年 大阪大学大学院情報科学研究科情報基礎数学専攻修士課程修了, 2014年 京都府立西舞鶴高等学校教諭, 2017年 - 神戸大学附属中等教育学校教諭, 現在に至る. 2020年 - 神戸大学数理・データサイエンスセンター客員研究員(高大連携)

授賞理由: 林兵馬氏は, 中学校および高等学校数 学科・情報科における学習指導要領改訂に伴い. 取り扱いが飛躍的に拡大した統計・データサイエ ンス教育の授業デザイン実践および神戸大学との 高大連携・(株)日立システムズとの産学連携事業 の推進において顕著な実績を上げている. 同氏は 所属校において、2020年度から学校設定科目「デー タサイエンス Ⅰ | 「データサイエンス Ⅱ | のカリ キュラム開発責任者として携わっており、神戸大 学数理・データサイエンスセンターの協力を得な がら, 情報科と連携して数学科の授業でどのよう に統計・データサイエンス教育を指導するかを実 践している。また、生徒の統計的課題研究の指導 にも熱心に取り組んでおり、指導した生徒が ISLP Poster Competition younger division 1st Prize などさ まざまなコンペティション等において賞を獲得し

ている.このような同氏の活動は,高大連携や産 学連携のモデルケースを形成し,今後の中等教育 および高大連携・産学連携における統計・データ サイエンス教育の発展にますます寄与することが 期待され,本学会統計教育賞に相応しいものであ る.

[2] 受賞団体名:島根県立大学, 浜田市総務部総務課. 島根県政策企画局統計調査課

授賞理由:島根県立大学、浜田市、島根県が連携 して取り組んだ「学生調査員育成事業」は、学生 に統計調査の座学やマナー研修を積ませた上で調 査員として活動することを通じて. 統計知識の習 得のみならず、社会参加のきっかけを提供する, 全国でも斬新で先進的な取組みである. この事業 は「国勢調査100年を成功させるデータサイエン ス議員連盟 | で高く評価され、このような取組み を横展開すべき旨が総務大臣に提言された. 本事 業の授業モデルケースとしての標準化・最適化が 進めば、公的統計に対する国民の回答協力意欲の 向上にもつながる. また身近な統計調査としての データ利活用にも展開でき, ひいては統計教育の 発展に寄与することに期待できる. この精力的な 取組みは、統計教育普及に貢献する事業として敬 意をもって高く評価することができ、島根県立大 学・浜田市・島根県の三組織は日本統計学会統計 教育賞にふさわしいと言える.

6. 第16回 日本統計学会研究業績賞について

樋口 知之(日本統計学会会長)

2022年度の日本統計学会研究業績賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名:本田 敏雄 氏

略歷:1989年 東京大学工学系研究科計数工学専攻 修士課程修了, 1992年 東京大学工学系研究科計数 工学専攻博士課程修了, 1992-1994年(株) 三菱総 研副研究員. 1994-1999年 筑波大学社会科学系講 師, 1999-2004年 同助教授, 2000-2001年 カリフォル ニア大学バークレー校統計学部客員研究員, 2004 年 - 一橋大学経済学部及び経済学研究科教授, 現 在に至る. 2011年 - 現在 統計数理研究所客員教授. 授賞理由:本田敏雄氏は,近年盛んに研究が行わ れている (超) 高次元データ解析問題に多大な貢 献がある。先行研究で行われていたシンプルなモ デル設定を拡張し、縦断データや変動係数モデル などのノン・セミパラメトリックモデルのより複 雑なクラスで重要な研究を行なっている. 同氏の 広範な研究結果により, 医学などの自然科学や経 済学などの社会科学への応用も大いに期待できる. また. 同氏が行なった研究は統計理論分野におい ても極めて重要な結果であり、本田氏の功績によ り今後もさらに (超) 高次元データ解析分野が進 展してくことは容易に予想できる. これは, Annals of Statistics & Journal of the American Statistical Association などの評価の高い学術雑誌に研究成果 が採択されていることからも分かる. 同氏の対象 論文に代表されるこれまでの統計学の発展への顕 著な貢献は、日本統計学会研究業績賞としてふさ わしいものである.

主要業績:

[1] Ming-Yen Cheng, Toshio Honda, Jialiang Li (2016). Efficient estimation in semivarying coefficient models for longitudinal/clustered data. *The Annals of Statistics*, 1988-2017.

- [2] Ming-Yen Cheng, Toshio Honda, Jin-Ting Zhang (2016). Forward variable selection for sparse ultrahigh dimensional varying coefficient models. *Journal of the American Statistical Association*, 1209-1221.
- [3] Toshio Honda, Ryota Yabe (2017). Variable selection and structure identification for varying coefficient Cox models. *Journal of Multivariate Analysis*, 161, 103-122.
- [4] Toshio Honda, Ching-Kang Ing, Wei-Ying Wu (2019). Adaptively weighted group Lasso for semiparametric quantile regression models. *Bernoulli*, 25, 3311-3338.
- [5] Toshio Honda (2021). The de-biased group Lasso estimation for varying coefficient models. *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, 73, 3-29.

[2] 受賞者氏名:丸山 祐造 氏

略歴:1994年東京大学教養学部卒業,1996年東京 大学大学院経済学研究科経済理論専攻博士課程前 期課程修了,1998年東京大学大学院経済学研究科 経済理論専攻博士課程後期課程退学,1998年九州 大学大学院数理学研究院助手,2000年博士(経済 学)(東京大学),2001年東京大学空間情報科学研 究センター助教授,2007年同准教授,2017年東京 大学大学院総合文化研究科/数理・情報教育研究 センター教授,2020年神戸大学大学院経営学研究 科教授,現在に至る。

授賞理由:丸山祐造氏は、分散共分散が単位行列の定数(スケール)倍である多変量正規分布の期待値パラメータの推定の統計的決定論の観点からの研究に取り組み、統計的推定の決定理論の分野で著名なラトガース大学のW.E.Strawderman 教授との共同研究による近年の一連の論文で、期待値パラメータの階層ベイズ推定量の性質について明らかにし、長年の課題に完全な解決を与えた。同

氏は、ハイパーパラメータがどの範囲にあるとき、推定量が許容性やミニマックス性をもつか、あるいはもたないかを完全に明らかにした。さらに、多変量正規分布とは限らない球対称の分布のモデルについても一部対応する結果を示している。これらの結果は Annals of Statistics、Biometrika、Bernoulli、Journal of Multivariate Analysis などの世界的に定評のあるジャーナルに掲載されている。以上、同氏の近年の一連の優れた研究は研究業績賞に相応しい特筆すべきものである。

主要業績:

[1] Yuzo Maruyama and William E. Strawderman (2022). On admissible estimation of a mean vector when the scale is unknown. Accepted for publication in *Bernoulli*.

- [2] Yuzo Maruyama and William E. Strawderman (2021). Admissible estimators of a multivariate normal mean vector when the scale is unknown. *Biometrika*, 108, 997-1003.
- [3] Yuzo Maruyama and William E. Strawderman (2020). Admissible Bayes equivariant estimation of location vectors for spherically symmetric distributions with unknown scale. *Annals of Statistics*, 48, 1052-1071.
- [4] Yuzo Maruyama and William E. Strawderman (2017). A sharp boundary for SURE-based admissibility for the Normal means problem under unknown scale. *Journal of Multivariate Analysis*, 162, 134-151.

7. 第15回 日本統計学会出版賞について

樋口 知之(日本統計学会会長)

2022年度の日本統計学会出版賞は、以下のように授与することが決まりました。

受賞出版物:教養としてのデータサイエンス (データサイエンス入門シリーズ). 講談社.

受賞者:北川源四郎 氏·竹村彰通 氏·内田誠一 氏· 川崎能典 氏·孝忠大輔 氏·佐久間淳 氏·椎名洋 氏·中川裕志 氏·樋口知之 氏·丸山宏 氏(共同 受賞)

授賞理由:文部科学省により設置された数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムは、分野を問わず、すべての大学・高専生(約50万人/年)を対象にしたリテラシーレベルの教育の基本的な考え方、学修目標・スキルセット、教育方法など

について、モデルカリキュラムを2020年4月に公開した。本書は、そのモデルカリキュラムに完全準拠することで教科書的な書籍となり、広い層に手にとってもらえることを企図している。著者陣もアカデミアおよび産業界において日本を代表する専門家8名が分担し、データサイエンスの各分野を親しみやすい図や写真、身近な事例をもとに分かりやすく解説している。読者対象としている大学生はもちろんのこと、データサイエンスに関心のあるビジネスマンや、前提知識が少ない高校生でも無理なく読み進めることができる。書名どおり、まさに令和の「教養」というべき内容となっており、本書は日本統計学会出版賞にふさわしいものである。

8. 第36回 日本統計学会小川研究奨励賞について

樋口 知之(日本統計学会会長)

2022年度の日本統計学会小川研究奨励賞は、以下の方に授与することが決まりました。

[1] 受賞者氏名: 佃 康司 氏

略歴: 2015年 総合研究大学院大学複合科学研究 科修了, 2014年 日本学術振興会特別研究員 DC, 2015年 日本学術振興会特別研究員 PD (学位取得 に伴う変更), 2015年 久留米大学バイオ統計セン ター助教, 2016年 東京大学大学院総合文化研究 科特任講師, 2020年 九州大学大学院数理学研究 院准教授, 現在に至る.

受賞論文: Koji Tsukuda (2019). On Poisson approximations for the Ewens sampling formula when the mutation parameter grows with the sample size. *The Annals of Applied Probability*, 29(2), 1188-1232.

受賞論文の評価: 佃康司氏は、これまで確率分割 に関する理論研究に取り組み、先駆的な成果を挙 げてきた. 特に確率分割の基本モデルであるEwens 抽出公式 (ESF: Ewens sampling formula) に従う確 率分布について、ふたつのパラメータが同時に大 きくなる設定のもとでの基礎的な結果を確立した ことの意義はきわめて大きく、緻密な誤差評価と 関数空間上の弱収束に基づいて構築された漸近理 論は、今後の標準となると言える、ESF は応用確 率論・統計学・数理集団遺伝学にとどまらず、確 率分割の基本モデルとして多岐にわたる科学分野 で議論されてきた重要なテーマである。高水準か つ柔軟な数理基盤を構築した対象論文は、ESF の 統計解析に関する研究の基礎的かつ先駆的な研究 成果であると評価でき、日本統計学会小川研究奨 励賞にふさわしいものである.

[2] 受賞者氏名:入江 薫 氏

略歴: 2010年 東京大学経済学部卒業, 2016年米国 デューク大学統計科学部修了 Ph.D. 取得, 2016年 東京大学経済学研究科講師. 現在に至る.

受賞論文:

- [1] Irie, K., Glynn, C. and Aktekin, T. (2022). Sequential modeling, monitoring and forecasting of streaming web traffic data. *Annals of Applied Statistics*, 16, 300-325.
- [2] Hamura, Y., Irie, K., and Sugasawa, S. (2022). On global local shrinkage priors for count data. *Bayesian Analysis*, 17, 545-564.

受賞論文の評価:入江薫氏は、状態空間モデルや カウントデータに対する分析手法を. ベイズ統計 学の観点から研究を行なっている. 論文[1]では, 高頻度に観測されるカウント時系列データに対し て、潜在状態をリアルタイムにモニタリング・予 測することが可能な分析手法を開発し、ウェブサ イトのアクセス数のデータに対する適用例を与え ている. 論文 [2] では、異質な平均構造を持つ カウントデータに対して、縮小型事前分布に関す る理論的結果と、その理論に基づいた新しい事前 分布のクラスを与えている. 両論文ともに、カウ ントデータに対する新しいモデリングの枠組みを 提示したもので、実応用における問題意識を動機 付けとして. ベイズ統計学の視点で新しい方法論 を開発した. 両論文はそれぞれ応用統計学および ベイズ統計学のトップジャーナルに掲載されてお り、日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしい成 果であると言える.

[3] 受賞者氏名:石井晶氏

略歴:2014年 筑波大学大学院数理物質科学研究 科数学専攻博士前期課程修了,2017年 同専攻博士 後期課程修了(博士(理学)),2017年 東京理科大 学理工学部情報科学科助教,2021年 東京理科大学 理工学部情報科学科講師,現在に至る.

受賞論文:

- [1] Aki Ishii, Kazuyoshi Yata, Makoto Aoshima (2022). Geometric classifiers for high-dimensional noisy data. Special Issue: 50th Anniversary Jubilee Edition, *Journal of Multivariate Analysis*, 188, 104850.
- [2] Aki Ishii, Kazuyoshi Yata, Makoto Aoshima (2021). Hypothesis tests for high-dimensional covariance structures. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, 73, 599-622.
- [3] 石井 晶, 矢田和善, 青嶋 誠 (2020). 単一強 スパイク固有値モデルにおける高次元平均ベク トルの 2 標本検定. 応用統計学, 49, 109-125.
- [4] Aki Ishii, Kazuyoshi Yata, Makoto Aoshima (2019). Inference on high-dimensional mean vectors under the strongly spiked eigenvalue model. *Japanese Journal of Statistics and Data Science*, 2, 105-128.
- [5] Aki Ishii, Kazuyoshi Yata, Makoto Aoshima (2019). Equality tests of high-dimensional covariance matrices under the strongly spiked eigenvalue model. Journal of Statistical Planning and Inference, 202, 99-111.

受賞論文の評価:石井晶氏は、従来の多変量解析 では扱うことのできない高次元小標本データに、 高次元統計解析の新たな理論と方法論を構築し顕 著な成果をあげてきた. 論文[1] は, トップジャー ナル Journal of Multivariate Analysis の50周年記念 特別号に招待論文として掲載される. 論文[3]は, 学術誌において奨励論文賞を受賞している. 論文 [4] は, Springerlink 2019 highly downloaded の統計 学 Top10にランクインし、JJSD の広報に大きく貢 献している. Debashis Paul 教授 (カリフォルニア 大学デービス校) などのランダム行列理論や高次 元統計理論の世界的権威からの招待などによる国 際会議での多数の招待講演の実績は、本論文の質 の高さを明らかに示している. また、最近では先 端材料や宇宙物理など諸分野からも注目され、新 たな成果が生まれている. このように本論文は, 同氏の持つ高い国際性と学際性に基づいたもので あり、日本統計学会小川研究奨励賞にふさわしい と言える.

[4] 受賞者氏名: 矢野 恵佑 氏

略歴:2012年 東京大学工学部卒業,2017年 東京大学情報理工学系研究科博士課程修了(学位取得),2015年 日本学術振興会特別研究員(DC2),2017年 東京大学工学部助教,2020年 統計数理研究所准教授,現在に至る.

受賞論文:

- [1] Edward George, Gourab Mukherjee, and Keisuke Yano (2021). Optimal Shrinkage Estimation of Predictive Densities under *a* -divergences. *Bayesian Analysis*, vol.16, 1139-1155.
- [2] Keisuke Yano, Ryoya Kaneko, and Fumiyasu Komaki (2021). Minimax Predictive Density for Sparse Count Data. *Bernoulli*, vol.27, 1212-1238.
- [3] Keisuke Yano and Kengo Kato (2020). On frequentist coverage errors of Bayesian credible sets in moderately high dimensions. *Bernoulli*, vol.26, 616-641.
- [4] Keisuke Yano and Fumiyasu Komaki (2017). Asymptotically minimax prediction in infinite sequence models. *Electronic Journal of Statistics*, vol.11, 3165-3195.

受賞論文の評価:矢野恵佑氏は、これまで高次元 や無限次元モデルにおける分布予測理論を構築し てきた. 受賞対象に挙げた4編の論文では, 近年 の応用上よく現れる高次元・無限次元モデルに着 目し、それらのモデル下でのベイズ予測分布の構 築およびその基礎について議論している. 論文[4] は, 近年のデータ環境を踏まえた, 関数自由度を もつモデルでのベイズ予測分布の構築を議論した 論文であり、関数空間におけるミニマックス最適 性を証明し、提案する予測分布の効率的な実装法 を示している. 論文の中で提案された手法は. い ずれも取り扱いと実装の面で容易性を勘案し工夫 されたものである. それにより, ウイルス感染の マーカー遺伝子の同定や、東京都のスリ犯罪件数 の予測といった実問題に適用され、有用性が確認 されていることは高く評価できる. これらの論文 は、分布予測の分野における重要な貢献により、日 本統計学会小川研究奨励賞に相応しいものである.

9. 第4回 細谷賞授賞について

松田 安昌(東北大学)

東北大学大学院経済学研究科では、細谷雄三名 營教授の統計学界における教育・研究への貢献を 記念して、広く人文・社会科学分野における若手 研究者のデータ科学研究を奨励するため、2018年 に細谷賞を創設しました。2022年3月31日を期日 に第4回受賞候補者の公募を行い、学外者を含む 選考委員会を設け、慎重な審査・選考を行いまし た。ここに選考結果を報告します。なお、本賞は 東北大学須永特定基金より寄付を受け日本統計学 会の後援により実施しています。

第4回受賞者

會田剛史(日本貿易振興機構アジア経済研究所)

Aida, T. (2020). Revisiting suicide rate during wartime: Evidence from the Sri Lankan Civil War. *PLoS ONE*, 15(10): e0240487.

講評

會田剛史氏はスリランカ内戦 (1983-2009) を事例として、現代的な計量経済学的手法によって内戦と自殺率の関係を検証した。氏は、古くから社会学や公衆衛生等で指摘される「国家間の戦争期間中に自殺率が低下する」という現象に関心を持ち、現代の社会情勢を踏まえ本検証の動機としている。各種統計資料を用いて自殺率を複数のコントロール変数とともに収集して県別年次パネルデータを構築し、スリランカ内戦時の県・年の固定効果を含む線形回帰モデルにより、平時と戦時、

また係争地域と非係争地域の間の自殺率の「差の差 (difference in difference)」を推定した。その結果、戦時中の係争地域の自殺率は43-52%低下することを実証し、戦時中の自殺率の低下は現代の社会的文脈においても成立することが示された。社会科学における統計 / データ科学研究の奨励を目的とする本賞にふさわしい成果である。

細谷賞選考委員会

松田安昌(選考委員長,東北大学)大屋幸輔(大阪大学)新谷元嗣(東京大学)照井伸彦(東京理科大学)Peter M. Robinson (London School of Economics and Political Science) 山形孝志 (University of York,大阪大学)

會田剛史氏略歴

2008/3 東京大学経済学部卒業

2014/3 博士(経済学, 東京大学大学院経済学研究科)

2014/4 日本学術振興会特別研究員 (PD)

2017/4 日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員 (現在に至る)

2022年12月に第4回授賞式および Hosoya Prize Lecture を開催する予定です. 詳細は下記 webpage をご確認ください.

東北大学大学院経済学研究科サービス・データ科 学研究センター

http://www2.econ.tohoku.ac.jp/~DSSR/

10. 2022年統計関連学会連合大会のお知らせ(第三報)

運営委員長飯塚誠也(岡山大学)実行委員長小森理(成蹊大学)プログラム委員長黒田正博(岡山理科大学)

2022年度統計関連学会連合大会について、現時点での進捗状況をご報告いたします。今大会は応用統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の6学会主催により開催されます。初日の9月4日(日)はチュートリアルセッションと市民講演会、2日目以降(9月5日(月)~8日(木))は一般講演や企画セッションなどを、現地および遠隔(オンライン)によるハイブリッド(ライブ)方式で開催する予定です。なお、新型コロナウィルス感染症の感染拡大状況によっては、完全オンライン開催になる場合もございます。この点をご承知おきください。

この第三報では、チュートリアルセッション、 市民講演会、企画セッション、コンペティション セッションなどの概要を項目ごとにご紹介いたし ます、今後、連合大会のウェブページ

http://www.jfssa.jp/taikai/2022/

に関連情報や詳細情報を随時掲載していきますので,ご覧ください.

1. ハイブリッド開催に伴う変更事項のご案内

講演申込の期間については5月10日(火)から受付を開始しました. 講演申込の詳細につきましては連合大会のウェブページをご確認ください. 講演申込はConfitというWebシステムを使いますので,連合大会ウェブページから行ってください. (講演申込は6月1日(水)17:00厳守、となります.)

2. 大会日程, 開催場所, 各種受付期間

	9月4日(日):チュートリアル
大会日程	セッションと市民講演会
	9月5日(月)~8日(木):本大会

開催場所	成蹊大学
主 催	応用統計学会, 日本計算機統計学会, 日本計量生物学会, 日本行動計量学会, 日本統計学会, 日本分類学会
講演申込	5月10日 (火) 11:00~6月1日 (水) 17:00厳守
	6月6日 (月) 11:00~6月24日 (金) 17:00厳守

3. 講演の申込

講演には次の種類があります.

- 一般講演
- ・企画セッション講演
- コンペティション講演

申込方法は、すべての講演に共通の事項と種類 ごとに異なる事項があります。ご注意ください。

4. 講演報告集用原稿の提出

(1)「一般セッション講演」、「コンペティション講演」に関わる事項

報告集用の原稿はA4サイズで1ページです. インターネット経由で電子ファイル (PDF 形式)を提出していただきます. 「2. 大会日程, 開催場所, 各種受付期間」を参照の上, 原稿提出期間を厳守してください.

(2)「企画セッション講演」に関わる事項

原則として、講演者が提出してください。 書式・提出期間等は、上記(1)と同じです。 オーガナイザーが代理で提出する場合は、 セッション内の各講演について、上記(1)と同様にして 1 件ずつ原稿を提出してください(「2. 講演の申込(3)「企画セッション講演」に関わる事項」も参照)。 その場合、 オーガナイザーは、 期限内に原稿を提出で

きるようなスケジュールで講演者に原稿作成・提出を依頼してください. 詳細は、別途オーガナイザーに送付している資料等をご参照下さい.

(3) すべての講演に共通の事項

講演種別にかかわらず、ご希望の方は、報告集用原稿とは別に、ウェブページに掲載する詳細論文を受け付けます(A4サイズ、最大10ページまで、PDF形式、ファイルサイズは1MB以内、フォント埋め込み)、詳細論文ファイルを上記(1)と同じタイミングで提出していただきます。報告集用原稿および詳細論文の執筆要領については、連合大会ウェブページ

http://www.jfssa.jp/taikai/2022/ をご覧ください.

(4) その他

オンライン参加を申し込んだ方には、大会当日 までに講演報告集を郵送にてお届けする予定です. 【注意】

講演報告集は、本大会ウェブページにて公開予 定です.公開を希望しない場合には、報告集用原 稿の提出時に、その旨をご指示ください。

5. 企画セッションのご案内

学会や個人等から申請のあった28件の企画セッションが予定されています。整理番号、テーマ名、オーガナイザーの氏名・所属は以下の通りです(編成都合で分割したセッションがあり、件数より番号が多くなっています). 各テーマのねらいや講演者・講演タイトルなどについては、後日連合大会のウェブページに掲載される情報をご参照ください

なお、企画セッションの運営はオーガナイザー に一任していますので、テーマについてのお問い 合わせは、各オーガナイザーにお願いいたします。 企画セッションの日程はプログラム作成時に決定 いたします。

- (整理番号), テーマ名 (セッション名), オーガナイザー (敬称略, 所属は申込情報より)
- (01) デモンストレーションセッション (飯塚誠也 (岡山大))

- (02) 日本統計学会各賞授賞式·日本統計学会各賞 受賞者記念講演(1)(大森裕浩(東京大))
- (03) 日本統計学会各賞授賞式·日本統計学会各賞 受賞者記念講演(2)(大森裕浩(東京大))
- (04) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療統計学のフロンティア」(松井茂之(名古屋大・統数研), 伊藤陽一(北海道大病院), 田栗正隆(東京医大))
- (05) 応用統計学会企画セッション「カーネル型推 定の最近の発展」(前園宜彦(中央大))
- (06) 状態空間モデリング研究の展開 (菅澤翔之助 (東京大))
- (07)「建設工事受注動態統計調査」問題を受けて 一公的統計の改善に必要なものとは? (肥後 雅博 (東京大))
- (08)「統計改革」の新地平 (肥後雅博 (東京大))
- (09) 2022 JSS-KSS-CIPS Joint Session for Young Researchers (各務和彦 (名古屋市立大))
- (10) 2022 JSS-KSS-CSA Joint Session (1): Computational Statistics (各務和彦 (名古屋市立 大))
- (11) 2022 JSS-KSS-CSA Joint Session (2): Complex Data Analysis(各務和彦(名古屋市立 大))
- (12) 2022 JSS-KSS-CSA Joint Session (3):
 Machine Learning(各務和彦(名古屋市立大))
- (13) 深層生成モデルによる時系列モデリング(樋口知之(中央大),中村和幸(明治大))
- (14) 大規模データにおける匿名加工とプライバシー保護の新たな展開(佐井至道(岡山商科大), 星野伸明(金沢大), 伊藤伸介(中央大))
- (15) JJSDセッション (各務和彦 (名古屋市立大), 菅澤翔之助 (東京大))
- (16) 非対称分布の理論と応用(吉羽要直(東京 都立大))
- (17) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演(安藤友紀(医薬品医療機器総合機構),川口淳(佐賀大), 五所正彦(筑波大),田栗正隆(東京医大),長谷川貴大(塩野義製薬))
- (18) 応用統計学会 学会賞受賞者講演 (南美穂子

(慶應義塾大), 姫野哲人(滋賀大))

- (19) 企業における統計学の実践と新たな展開(南 美穂子(慶應義塾大), 黒木学(横浜国立大), 廣瀬慧(九州大))
- (20) 地震ビッグデータ解析の最前線(長尾大道 (東京大),加藤愛太郎(東京大),矢野恵佑(統 数研))
- (21) アジアの公的ミクロ統計の活用 (馬場康維 (統数研))
- (22) 日本計量生物学会40周年記念シンポジウム 「計量生物学の発展と今後の展開」(安藤友紀(医 薬品医療機器総合機構),川口淳(佐賀大),五 所正彦(筑波大),田栗正隆(東京医大),長谷 川貴大(塩野義製薬))
- (23) 諸分野に向かう統計・数理・データ科学(林 邦好(京都女子大), 宮路智行(京都大), 中野 直人(明治大))
- (24) Society 5.0の実現に向けた統計教育に関する 動きと課題(竹内光悦(実践女子大), 藤井良 宜(宮崎大), 渡辺美智子(立正大))
- (25) 公的統計ミクロデータ利活用の現状と課題 (南和宏(統数研), 伊藤伸介(中央大), 高部 勲(立正大))
- (26) 日本計算機統計学会企画セッション「計算 機集中手法の最前線」(中村永友(札幌学院大))
- (27) 生存時間解析・イベントヒストリー分析 (江 村剛志 (久留米大))
- (28) 統計エキスパート人材育成―多様な分野で の統計活用へ(1)(中西寛子(統数研))
- (29) 統計エキスパート人材育成―多様な分野で の統計活用へ(2)(中西寛子(統数研))
- プレナリーセッション、チュートリアルセッション、市民講演会について
 プレナリーセッション 赤池メモリアルレクチャー

日 時:2022年9月5日(月)午後 【オンライン講演】

オーガナイザー:二宮嘉行(統計数理研究所)

<赤池メモリアルレクチャーについて>

故赤池弘次博士は「赤池情報量規準(Akaike Information Criterion: AIC)」を提唱し、予測の視点に基づき従来の統計理論とは異なる新しい統計モデリングのパラダイムを確立して広範な研究分野に大きな影響を及ぼしたことで知られています。その功績を記念して、統計数理研究所と日本統計学会は2016年度に「赤池メモリアルレクチャー賞」を創設しました。統計数理研究所と日本統計学会により、2年に1度受賞者が選出され、記念講演が行われます。

市民講演会

今回の市民講演会では、Women in Data Science (WiDS) で御活躍中の小野陽子先生に、世界規模の大きな問題に対し Data Science が担う役割について御講演して頂けることになりました。

日 時:2022年9月4日(日)13:00~14:00 【ハイブリッド講演】

タイトル:世界は DS でできている~考える葦と 多様性~

講演者: 小野陽子氏 (横浜市立大学, WiDS TOKYO @YCU アンバサダー)

概要:気候変動,生物のみならず文化の多様性喪失,感染症,飢餓,水問題……地球規模で,人間を含む,特に弱い立場の全ての生き物に深刻な影響が及んでいます。生き物社会とその場としての地球環境の持続可能性に関係するすべての問題の背後にはデータがあり、「考える葦」は対処法のみならずあるべき姿を考えなければなりません。多様で心豊かな未来を「データ思考」する際に常に心得るべきことは何か,事例を通じて共に考えましょう。

チュートリアルセッション

今回のチュートリアルセッションでは、生態学の分野で御活躍中の深谷先生、伊東先生に最近御出版された「生態学のための階層モデリングーRと BUGS による分布・個体数量・種の豊かさの統計解析—」(Marc Kery, J. Andrew Royle 原著、共立出版)についてご講演いただけることになりま

した.

日 時:2022年9月4日(日)14:30~17:30(休 顔時間を含む)【ハイブリッド講演】

テーマ:生態学における階層モデルの応用 オーガナイザー:小森 理(成蹊大学)

講師:深谷 肇一氏(国立環境研究所)

伊東 宏樹氏 (森林総合研究所)

概要:本講演では、「生態学のための階層モデリング―RとBUGSによる分布・個体数量・種の豊かさの統計解析―」(共立出版)の内容に基づき、生態学分野における統計モデリングの最新の話題を紹介します。

野生生物集団の動態を理解することは生態学の主要な問題であり、また生物多様性の保全においても重要です。そのためには、ある環境に生息する個体の数や種の数を正確に把握することが必要ですが、野外ではこうした数量を直接測定できない場合が少なくありません。特に、生態調査では生息個体を完全に検出することが難しい(見落としが起こりうる)ことが多く、個体数や種数の評価を困難なものにしています。

本講演では、こうした不完全な検出を考慮して、直接的な測定が難しい生物集団特性(分布、個体数量、種の豊かさ)を推定するための統計モデリング手法を取り上げます。不完全な検出の問題を統一的に扱うためのアプローチとして、潜在変数を含む階層モデルに着目します。関心のある生態学的変動と厄介な検出誤差を区別するために、生態過程と観測過程の両方を明示的に表現した様々な階層モデル(サイト占有モデルや N 混合モデルなど)を説明します。また、こうした階層モデルによる推測を、JAGS や Stan を含むいくつかのソフトウェアを用いて行う方法を紹介します。

本講演で扱う話題は生態学分野のものに限られますが、本講演で取り上げる統計モデリングのアプローチは、直接的な測定が難しい対象を扱う他分野でも役立つかもしれません。幅広い方にご参加いただけるよう、講演では生態研究に固有の背景や文脈も分かりやすく整理して説明します。

7. 参加申込と大会参加費

参加登録については大会ウェブページからの申込のみとなります。密の回避のため現地での参加申込受付は致しません。円滑な大会の運営のためにも、また参加費割引のためにも、事前参加申込をご利用ください。受付期間は、「2.大会日程、開催場所、各種受付期間」を参照してください。事前参加申込の場合、参加費が大幅に割引になりますのでぜひご利用ください。

大会参加費 (報告集代を含む)

	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	7,000円	10,000円
学生 (会員・非会員を問わず)	3,000円	8,000円
学生以外の非会員	15,000円	20,000円

チュートリアルセッション参加費(資料代を含む)

	事前申込	当日受付
会員(主催6学会の会員)	3,000円	4,000円
学生 (会員・非会員を問わず)	2,000円	3,000円
学生以外の非会員	6,000円	8,000円

懇親会参加費

現在, 調整中です. 追って, Webページにてアナウンスいたします.

【注意】

- (1) 講演申込をされた方も参加申込の手続きが必要です.
- (2) これまでの大会と同様に、事前申込のキャンセルと変更は認められません。大会に参加されなかった場合、報告集などの資料送付のみとなります。
- (3) 主催6学会の会員以外の方が、企画セッションや特別セッションでオーガナイザーから依頼されて講演される場合、大会参加費は無料となります.
- (4) 市民講演会は無料です.
- (5) 報告集およびチュートリアルセッション資料 の(追加) 購入は、参加登録のページからお申 し込みください。
- (6) 昨年度と同様に、参加の方法の「オンライン

参加」の注意事項は連合大会のウェブページに てご案内いたします。また、発表者の方には、 チュートリアル・市民講演会の開催日(9月4 日(日)、予定)にテスト会場を準備する予定 となっておりますので、ご利用ください。

8. 宿泊・アクセス案内

今大会では宿泊の斡旋はいたしません。各自で早めに宿泊の予約をお済ませください。大会会場の成蹊大学へは、JR中央線・総武線(東京メトロ東西線)・京王井の頭線「吉祥寺駅」から徒歩約15分、吉祥寺駅北口バスのりば1・2番より関東バス約5分(「成蹊学園前」下車)、西武新宿線「西武柳沢駅」南口より関東バス(吉祥寺駅行)約15分(「成蹊学園前」下車)です。大会会場へのアクセスについてはウェブページ

https://www.seikei.ac.jp/university/aboutus/accessmap.html もご覧ください.

9. 託児施設の利用案内

本大会では、託児施設を利用される場合予算内にてその費用を補助する運びとなりました。本大

会に対面参加し託児所利用費の補助を希望される 方は、以下の(1) \sim (3) の手続きを行ってくだ さい。

手続きに必要な託児所利用補助申請書と託児費 用申請書は、大会ウェブサイト内の「宿泊・観光」 ページでダウンロード可能です。

- (1) 8月21日(日)までに託児所利用補助申請書を下記の担当者にメールにてお送りください.
- (2) 託児所の選定・予約は、各自で行ってください。
- (3) 9月16日(金)までに託児費用申請書と領収書(原本)を申込・問い合わせ先の担当に郵送してください.

申込・問い合わせ先

2022年度統計関連学会連合大会実行委員会 E-mail: jikkou2022 (at) jfssa.jp (at) を @ に置き換えてください. 〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

なお,予算の関係上,全額の補助ができない場合がありますので,ご了承の程お願いいたします.

11. 第4回「赤池メモリアルレクチャー賞」

受賞者および記念講演が決定

統計数理研究所と日本統計学会は2016年に「赤池メモリアルレクチャー賞」を共同で創設しました。故赤池弘次博士の功績を記念し若手人材の育成を促進し、統計科学の発展に寄与するため、同研究分野において顕著な業績を挙げた研究者を対象として2年に1度選出、授賞するものです。

第4回受賞者は、ヘルシンキ大学のアーポ・ヒ

バリネン教授に決定しました. 受賞記念講演は2022年度統計関連学会連合大会のプレナリーセッションとして9月5日(月)16時~18時に現地とオンラインのハイブリッド形式の講演として実施される予定です. 詳しくは日本統計学会のホームページをご覧ください.

12. ISI 東京大会記念奨励賞の募集

川崎 茂(ISI東京大会記念基金運営委員会委員長)

本年5月24日,第3回ISI東京大会記念奨励賞の募集を開始しました。この賞は、2023年7月にカナダで開催されるISI World Statistics Congress 2023 (ISI WSC 2023) において研究発表を予定している若手研究者を対象として選考が行われます。受賞者には、ISI WSC 2023への参加旅費等に相当する賞金として30万円が授与されます。

募集対象は、日本国内に在住する30歳以下(2023年4月1日現在)の日本統計学会会員(入会予定者を含む)で、ISI WSC 2023において Contributed Paper (CP)発表を予定している方です。ただし、過去に本奨励賞の受賞経験のある方は対象外とします。

応募のメ切は2022年12月16日です. なお, ISI WSC 2023の Contributed Papersの受付期間は2022年9月15日~11月30日となっており、本奨励賞への応募に先立ち、これに応募することが必要となります.

本奨励賞に関する詳細及び応募書式については, 次の日本統計学会の次のサイトでご確認ください.

https://www.jss.gr.jp/society/prize/isi_tokyo_3nd/要件に該当する研究者の方々は、奮ってご応募ください。また、この賞がより多くの該当者に知っていただけるよう、該当者をご存じの場合には、その方に応募をお勧めください。

多数の方々のご応募をお待ちしています.

13. 理事会・委員会報告(2022年5月7日開催)

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時: 2022年5月7日(土曜日)午後1時00分~午後2 時07分

場所:東京大学本郷キャンパス小島ホール2Fコンファレンスルーム

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施 Zoom (ミーティング ID: 867 3463 7993)

理事の総数 14名 出席理事の数 14名 監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者:

理事: 樋口知之会長, 大森裕浩理事長, 小池祐太(庶務), 加藤昇吾(庶務), 吉田靖(会計), 青嶋誠(JJSD), 柳原宏和(会誌編集和文), 中島上智(広報), 吉羽要直(大会・企画・行事), 菅澤翔之助(国際), 各務和彦(国際), 瀬尾隆(渉外), 佐藤整尚(渉外), 竹内光悦(教育)

(以上14名, 括弧内は役割分担)

監事:岩崎学,川崎茂,山下智志

第1議案 2021年度事業報告について

大森理事長より、資料に基づき、2021年度事業報告

がなされた. 審議の結果, 承認され, 社員総会で諮る こととした.

第2議案 2021年度決算報告について

大森理事長より、資料に基づき、2021年度決算について報告があり、審議の結果、承認され、社員総会に 諮ることとした。

第3議案 監査報告について

岩崎監事,川崎監事,山下監事より,資料に基づき, 2021年度事業報告および決算の監査結果について報告 があり,審議の結果,承認され,社員総会で報告する こととした.

第4議案 賛助会員・団体会員への和文誌およびJJSD の送付方法の変更について

大森理事長より、資料に基づき、賛助会員・団体会 員への和文誌および JJSD の送付方法の変更について報 告がなされた。

第5議案 賛助会員・団体会員への和文誌およびJJSD 送付に関する内規の変更について

大森理事長より,資料に基づき,賛助会員・団体会員への学会誌送付に関する内規の変更について説明が

あり、審議の結果、承認された。

第6議案 常設委員会における委員長・委員の交代について

大森理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員 長および委員の交代について提案があり、審議の結果、 これを承認し、社員総会に報告することとした。

庶務委員会

加藤昇吾委員長より小池祐太委員長に交代(2022年 5月21日付)

加藤昇吾委員より小山慎介委員に交代(2022年5月21日付)

国際関係委員会

菅澤翔之助委員長より各務和彦委員長に交代(2022 年5月21日付)

菅澤翔之助委員より荒木由布子委員に交代(2022年5月21日付)

第7議案 常設委員会における委員の再任について

大森理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員 の再任について提案があり、審議の結果、これを承認し、 社員総会に報告することとした。

庶務委員会

吉田靖委員を再任(2022年5月21日付)

第8議案 臨時委員会「多様性推進特別委員会」の委員 長・委員の選仟について

大森理事長より、資料に基づき、臨時委員会「多様性推進特別委員会」の委員長および委員の選任について提案があり、審議の結果、これを承認し、社員総会に報告することとした。

多様性推進特別委員会

南美穂子委員長を選任(2022年4月1日付)

荒木由布子委員, Wu Stephen委員, 小野陽子委員, 菅 由紀子委員, 黒木学委員, 下平英寿委員, 廣瀬慧委員, 松井知子委員, 南美穂子委員, 渡辺美智子委員を選任 (2022年4月1日付)

第9議案 2023年度学会賞各賞の選考委員について

樋口会長より、2023年度の中村隆英賞における「会長が推薦する選考委員」として會田雅人会員、山本拓会員及び美添泰人会員を再任することが提案され、審議の結果、承認された。

また、中村隆英賞を除く各賞の選考委員については、 5月21日の社員総会において西郷浩会員および水田正 弘会員の推薦を提案し、審議する予定であることが説 明された。

第10議案 会員の入退会

大森理事長より,回収資料に基づき,入退会希望者 が紹介され、審議の結果、一部修正の上これを承認し、 社員総会に提出することとした.

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時: 2022年5月7日(土曜日)午後2時07分~午後4時15分

場所:東京大学本郷キャンパス小島ホール2Fコンファレンスルーム

ハイブリッド出席型バーチャル委員会として実施 Zoom (ミーティング ID: 867 3463 7993)

出席: 理事14名, 監事3名, 計17名

樋口知之会長,大森裕浩理事長,小池祐太,加藤昇吾,吉田靖,青嶋誠,柳原宏和,中島上智,吉羽要直,菅澤翔之助,各務和彦,瀬尾隆,佐藤整尚,竹内光悦,岩崎学(監事),川崎茂(監事),山下智志(監事)

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

青嶋委員長よりJJSDの編集状況について報告があった.

2. 和文誌編集委員会

柳原委員長より和文誌の編集状況について報告があった.

3. 大会委員会

吉羽委員長より,統計関連学会連合大会の第二報が 発行されたことが報告された.

4. 企画・行事委員会

吉羽委員長より、3月5日(土)に行われた第16回春 季集会について開催報告がなされた。

5. 庶務委員会

加藤委員長より、日本統計学会が以下の学術的会合 等を後援することが報告された.

- (1) 総務省,独立行政法人統計センター,和歌山県「データ利活用シンポジウム~DX時代の統計~」
- (2) 独立行政法人統計センター「第5回統計データ分析コンペティション」(総務省統計局,大学共同利用機関法人情報・システム研究機構統計数理研究所及び一般財団法人日本統計協会との共催)
- (3)(公財)統計情報研究開発センター「第70回統計グラフコンクール」

6. 広報委員会

中島委員長より、4月末に会報191号が発行されたことが報告された。

7. 国際関係委員会

菅澤委員長より,2022年度統計関連学会連合大会において,JJSDセッションを開催する予定であることが報告された。また、台湾統計学会、韓国統計学会、日本統計学会共同開催の国際セッションも企画セッションとして開催することが報告された。

8. 渉外委員会

佐藤委員長より、3篇の JJSD 掲載論文のオープンアクセス化のための費用 (APC) を、2021年度科研費から支出したことが報告された。また、2022年度科研費の交付申請について説明がなされた。

9. 質保証委員会

瀬尾委員長より,統計質保証推進協会で開催された事業委員会および企画委員会での議論の内容が報告された.

10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

川崎委員長より、次回の運営委員会での議題について説明があった。

11. 統計教育委員会

竹内委員長より,第19回 統計教育の方法論ワークショップ,および中高生・スポーツデータ解析コンペティションについて開催報告がなされた。また、ISLPのInternational Poster Competitionが参加募集中であることが報告された。さらに、その他の最近の活動について報告があった。

12. その他

加藤庶務委員長より、資料に基づき、2021年度統計教育連携ネットワーク(JINSE)中間報告について、説明があった。

<審議事項>

- 1. JJSD 支援委員会 審議事項なし
- 2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

3. 大会委員会

審議事項なし

4. 企画・行事委員会

吉羽委員長より、次回の春季集会における会員の参加費有料化の見送りについて提案があり、審議の結果、承認された。

5. 庶務委員会

加藤委員長より、資料に基づき、賛助会員・団体会 員の入会申込書の修正について提案があり、審議の結果、 承認された。

6. 広報委員会

審議事項なし

7. 国際関係委員会

審議事項なし

8. 渉外委員会

審議事項なし

9. 質保証委員会 審議事項なし

10. ISI 東京大会記念基金運営委員会 審議事項なし

11. 統計教育委員会 審議事項なし

12. その他

審議事項なし

14. 社員総会報告

日時: 2022年5月21日(土曜日)午後1時30分~午後3 時17分

場所: 東京大学本郷キャンパス 小島ホール 2 F コンファレンスルーム

ハイブリッド出席型バーチャル社員総会として実施 Zoom (ミーティング ID: 883 9520 5971)

出席者:樋口知之会長,大森裕浩理事長

出席代議員:會田雅人,青嶋誠,岩崎学,川崎茂,川 崎能典,国友直人,西郷浩,酒折文武,瀬尾隆,竹 内光悦,竹村彰通,谷崎久志,椿広計,中野純司, 廣瀬慧,前園宜彦,増田弘毅,南美穂子,山下智志, 美添泰人,渡辺美智子(以上21名,委任状提出4名)

オブザーバー:加藤昇吾 (庶務), 小池祐太 (庶務), 吉田靖 (会計)

冒頭、樋口会長より定足数を満たしていることを確認の後、開会宣言がなされ、オブザーバー3名の出席

が承認された. 樋口会長より, 議事録署名人として西郷浩, 中野純司両代議員に依頼する旨説明があり, 承認された.

審議事項

第1議案 2021年度事業報告及び決算に関する件

樋口会長より、資料に基づき、2021年度の事業報告と決算報告について報告がなされた。オブザーバーの吉田会計理事より、2021年度決算報告について追加の説明がなされた。また、岩崎監事、川崎監事、山下監事から特に問題はなかった旨の監査報告をいただいていることから、審議の結果、これを承認した。

第2議案 準会員制度に関する定款細則の改正に関する 件

樋口会長より、資料に基づき、準会員制度に関する 定款細則の変更について提案がなされ、大森理事長よ り補足説明がなされた、審議の結果、これを承認した。 [資料1-1]

[資本1-1]

一般社団法人 日本統計学会

2021年度事業報告

$(2021.4.1 \sim 2022.3.31)$

学会の動向

日本統計学会は一般社団法人として 11 年目を迎え,2 年周期の学会事業の6期目の初 年度を終えることになる、運営の経験を蓄積したことを生かして、樋口知之会長、大森裕 問理事長を含む14名の理事と3名の監事、および各種委員会における委員により、各種 事業を着実に実施した、科学研究費「国際情報発信強化(B)」により、Japanese Journal of Statistics and Data Science の発行と国際セッションの実施が強化され、国際的な活 動にも大きく貢献した年度であった.

2022 年 2 月 28 日現在の会員の数は 1,491 (名誉会員 14, 正会員 1,394, 準会員 9, 生会員 74), これに加えて賛助会員 18 法人, 団体会員 7 団体がいる.

I. 出版編纂事業

1. 和文誌の発行

和文誌2号[第51巻シリーズJ第1号(2021年9月), 第51巻シリーズJ第2号(2022 年3月]]を発行した. 内訳は原著論文1編, 受賞者特別寄稿論文4編, 特集論文5編, 長就任講演、全 317 ページであった.

2. Japanese Journal of Statistics and Data Science 編纂の支援

Japanese Journal of Statistics and Data Science 第 4 巻 (Issue 1, Issue2: 原著論文 また, 科学研究費助成事業 研究成果公開促 進費「国際情報発信強化(B)」の採択により資金面での貢献ができた(なお,本科研費は 46 編; 全 1321 ページ)の発行に協力した. 国際的活動資金としても利用されている).

3. 会報の発行

No.187 (4 月), No.188 (7 月), No.189 (10 月), No.190 (1 月) を発行した.

4. JSS Research Series in Statistics シリーズ(英文)の出版

2021 年度は 3 冊(2022 年 3 月現在)が出版され、2020 年度以前に出版されたものを含め 2020 年度に引き続き,JSS Research Series in Statistics シリーズの出版を行った.. 5 と 32 冊が出版済である.

D. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第89回大会の開催

2021年9月5日(日)~9日(木), 2021年度統計関連学会連合大会の一環としてオンラ インで開催した(開催校は長崎大学)、当初は、長崎大学文教キャンパスでの現地参加およ び遠隔でのオンライン参加も可能な形での開催が予定されていたが、新型コロナウィル ス感染症感染拡大の影響により,2020 年度と同様に完全オンラインにて実施された.

レナリーセッションを行い、また、企画セッションとして、日本統計学会会長講演、日本 統計学会各賞受賞者講演(各賞授賞式)を行った

2. 春季集会の開催

2022 年 3 月 5 日(土)に, 第 16 回春季集会が慶應義塾大学三田キャンパスにて, 遠隔で のリアルタイム参加も可能な形で開催された.参加者は241名(現地77名,オンライン 164名) であった.

3. 研究分科会の活動

以下の分科会が活動を行った.

統計教育分科会」(藤井良宜主查:2010年12月発足,2023年3月終了予定) 「スポーツ統計分科会」(田村義保主査:2009年6月発足,2021年5月終了)

「計量経済・計量ファイナンス分科会」(福重元嗣主査(2019 年 4 月より末石直也主 (型):2010年12月発足,2023年3月終了予定

「女性統計家・データサイエンティスト育成分科会」(小野陽子主査:2019 年4 足,2023年3月終了予定) 「スポーツデータサイエンス分科会」(酒折文武主査:2021年6月発足,2025年5 月終了予定)

4. 国際会議への協力

2021 年 11 月 5 日(金)~6 日(土)に開催された韓国統計学会の 50 周年記念大会へ樋口 会長よりお祝いのビデオメッセージを送付した. 2021年12月10日(金)、輔仁大学(台湾)にて遠隔でのリアルタイム参加も可能な形 で開催された台湾統計学会・韓国統計学会・日本統計学会共同開催の国際セッション

2022 年 2 月 21 日(月)~24 日(木)に, 同志社大学にて遠隔でのリアルタイム参加も可能 な形で開催された IASC ARS 2022 への助成を行った。また、樋口会長より開会式挟拶が CSA-KSS-JSS Joint Sessions」4件の開催に協力した.

皿 会員関係事業

質の授与

学会活動の活性化促進のため,以下の賞を授与した.

第 26 回日本統計学会賞:內田 雅之

美添 泰人 第1回日本統計学会中村 英賞:高山 憲之,西村 清彦,

第17回日本統計学会統計活動賞:竹內 光悦, 西浦 博

第 17 回日本統計学会統計教育賞:林 宏樹,Women in Data Science (代表: 小野

第15回日本統計学会研究業績賞:二宮 嘉行

陽子, 菅 由紀子, 西戸 京子)

1|111 - E 菅澤 翔之助, 第35回日本統計学会小川研究奨励賞:今泉 允聡,

第 2 回 ISI 東京大会記念奨励賞:栗栖 大輔,陶 俊帆,仲北 祥吾

各種委員会の活動

社員総会 (2021年6月12日) および社員懇談会 (2022年3月4日) を開催した.

理事会(2021年5月8日,6月12日,7月24日,10月30日,2022年2月10日) 期催した。 春季集会に関係する理事監事および委員で構成される春季集会準備会合(2021年11月 13日)を開催した.

役員・代議員協議会 (2021年9月5日) を開催した.

その他の各種委員会を適宜, 開催した.

3. 広報活動の充実

メーリングリストの使用やウェブサイトの充実により、各種情報発信を促進した。

4. 入会者の拡大

若手研究者の入会を促進した.

IV 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力

日本統計学会が認定団体となっている「統計検定」が、無媒体(2021年6月20日、11月21日)および CBT の両方式で, 一般財団法人統計質保証権進協会により実施された。

2. MOOC による統計学講座の提供

MOOCのブラットフォーム gacco において,「統計学1:データ分析の基礎」,「統計 II:権測統計の方法」および「統計学 III:多変量データ解析法」を開講した.

3. 統計教育関連事業の推進

2021 年度統計関連学会連合大会にて「新学習指導要領と高大連携データサイエンス教育の展開」と題した企画セッションを実施した。

「第 19 回 統計教育の方法論ワークショップ」を 2022 年 3 月 18 日(金)~19 日(土)に日本統計学会統計教育分科会,情報・システム研究機構統計数理研究所と連携し主催し

た. 149 名の参加登録があった.

「中高生・スポーツデータ解析コンペティション―2021―」を日本統計学会スポーツデータサイエンス分科会、同統計教育分科会と連携し、主催した。20 チームの参加があり、審査・授賞を行った。

日本統計学会統計教育分科会と連携し「ISLP International Poster Competition 2022-2023 in JAPAN」のサイトを公開した. 2022 年 2 月 11 日(金)~12 日(土)にオンラインにて開催された「理数系教員統計・データサイエンス授業力向上研修集会(愛援)」を共催した。

そのほか、関連情報や関連のイベント等をメーリングリストやサイトを利用して告知 した。

V. その街

1. 統計教育理事の新設

日本統計学会統計教育委員会運用規則を変更し、2021 年 6 月 12 日付で統計教育委員会から 1名を理事会に加えることを決定した.

2. 臨時委員会「多様性推進特別委員会」の設置決定

臨時委員会「多様性推進特別委員会」を 2022 年 4 月 1 日付で設置することを決

3. 細谷賞の後援

東北大学大学院経済学研究科が創設した細谷賞を後援した。

第3回細谷賞:今泉 允聡, 茂木 快治

4. 男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー加盟

男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバーとしての加盟が 2022 年 3 月 8 日付で承認された.

5. 国土交通省「建設工事受注動應統計」におけるデータ書き換え問題に対する声明の公表

国土交通省「建設工事受注動態統計」におけるデータ書き換え問題に対する日本統計学 会の声明を作成してウェブサイトで公開するとともに,総務省統計委員会(2022年1月)

26 日開催)に対して送付を行った.

6. 日本統計学会 YouTube チャンネルの開設

第 16 回春季集会の講演動画を会員向けに配信した.

7. 学会業務のデジタルトランスフォーメーション化の推進

情報共有と意見交換の方法をメールから Slack 上に完全移行し、学会業務のデジタル トランスフォーメーション化に取り組んだ、Slack は無料プランを利用し、単年度毎にワ ークスペースを開設する. ただし残しておくべき記録は、庶務担当理事が別途保存することとした.

事業報告附属明細書

附属明細書に記述すべき事項はない.

一般社団法人 日本統計学会 2021年度 決算書(連結ペース)

(2022年3月31日現在) (単位 円)

[資料1-2]

174,859,969

159,843,317 180,100,201 180,100,201

> (注) ISI基金はISI東京大会記念事業基金。 IICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金。

159,843,317

固定資産合計 資産合計

150,952,934

174,859,969

180,100,201

24.294.942 長度合計 3.503.901 指定形容的形 1.550.112 9.223.842 一般正像財産 1.23.875 (うち基本財産への予当額) 2.66.892.602 1.50.923.304 (うち等出額)

> 3,503,841 1,030,655 1,530,100 39,744,386 11,278,661 2,796,359 99,959,315 159,843,317

> 学会活動積立金 60周年記念基金 75周年記念基金 ISI基金 小川基金会 中村隆英賞基金 特定資産合計

387,907

11 負債の部 未払金

24,294,942

20,256,884

20,256,884

貸借対照表 料 目 「資産の部 現預金 流動資産合計

[資料1-2]

20	2021年4月1日~2022年3月31日 2021年度予算(補正後) 2021年	1日 2021年度決算	(単位 円) 備考
	000 \$55	10 440 040	
	10,380,000	10,842,500	
nit?	9,700,000	9,949,000	
(12,000	13,500	
	400,000	566,000	
	320,000	280,000	11
	5,793,000	5,793,402	科学研究費補助金、うち1.627,788円は返納予定 春季集会補助
	836,000	851,440	4 1
	150,000	114,000	
	585,000	570,000	_
	100,000	165,870	著作権許諾科等
	28,288,000	24,682,574	
和51-1, 2)	4.000,000	4.104.385	*」PStageの終帯を含む、ペーン数指による専用揺加
	2,500,000	2,500,000	JUSDIC関するSpringer Nature社業務委託費
-190号)	800,000		
	700,000		D数年後に第17 本計・本轄の単統 本側田路線
	400,000	ı	本版 本紙の割り 18赤石地寺
茶季集余群福報	1,000,000		インレイン理権
	0		非会員者
多加費	▲ 270,000	0	-開催中止(参加費はマイナス
	400,000	207,658	許、万
	20,000		(75)司牛記忆基金充当)
	330,000	2 063 124	(小川)真泰亚尤当
	100 000		1.17年又兵歩三九三 連合大会替即今首招待公
	200,000		4tt
	410,000		
社員総会、役員·代議員協議会	170,000	11,928	
	20,000	0	
	20,000	/40	
	150,000		
	441,000	244.921	
	191,000	170,905	カード決済手数料
	40,000	0	
く作気	40,000	50,000	
	40,000	12,366	
	30,000	11,650	収入印紙
	2,712,000	2,762,000	*中村隆英賈賈分5万円增加
	2,102,000	1,673,047	
	900,000	400,024	
大 机 5 不 4	19000	011,006	
	700,000	4,370	
1	150,000	000,000	
	160,000	158.280	
de	35,000	35,000	
	35,000	33.280	
专作研究团体通合	20 000	50,000	
新計関連字会連合	40,000	40,000	
	0	0	
	100,000	15,950	ドメイン維持費、サーバシステム更新
	200,000	0	
	00000	0	
	000,00	20000	
	000/0/	-	200
	000,000,000	П	NOO NICES A TO NOT THE THE THE THE THE THE THE THE THE TH
	000,202,0	П	14/2/89
	000,410,00	П	
	000,410,5	2,010,040	
	000'000'0	- 0,004,000	
	0	0	
		180,100,201	
		174,859,969	
	0	0	
	0	174,859,969	
	2000	k	
	OUUU,UUU,C	0	

[資料1-2]

特定資産の増減及びその残高

特定資産の増減及びその残高は次のとおりである

(2022年3月31日現在)

摘要	增加額は預金利息	增加額は預金利息	增加額は預金利息	34,233,182 JASCARS に500万円を支出	增加額は預金利息	増加額は預金利息	3名授賞の賞金・副賞・振込手数料等	
当期末残高	3,503,901	828,522	1,530,112	34,233,182	11,278,757	2,685,858	96,892,602	150,952,934
当期減少額	0	202,136	0	5,511,505	0	110,525	3,067,545	8,891,711
当期増加額	09	3	12	301	96	24	832	1,328
前期末残高	3,503,841	1,030,655	1,530,100	39,744,386	11,278,661	2,796,359	99,959,315	159,843,317
本	学会活動積立金	60周年記念基金 (注1)	75周年記念基金	ISI基金 (注2)	ICP基金 (注3)	小川基金会 (注4)	中村隆英賞基金	合

(注1)60周年記念基金の資金使途は学会賞(置時計、大会参加費)等

(注2) ISI基金の資金使途は事務局業務委託費等

注3) ICP基金はICPセミナーフォローアップ事業基金

注4) 小川賞基金の資金使途は小川賞賞金等

附属明細書

貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書は財務諸表の注記に記載している。

監査報告書

私たち監事は、一般社団法人日本統計学会の 2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日ま での理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下の通り報告いた します。

監査の方法及びその内容

各監事は、理事と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、 理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報 告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業 務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告 にて検討いたしました。

さらに、当該事業年度に係る計算書類(正味財産増減計算書、貸借対照表)について検討 いたしました。

監査の結果

- (1) 事業報告等の監査結果
- 一. 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、学会の状況を正しく示している ものと認めます。
- 二.理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は 認められません。
- (2) 計算書類の監査結果

計算書類は、学会の財産及び損益の状況を全ての重要な点において適正に表示してい るものと認めます。

2022年4月19日

一般社団法人日本統計学会 事 Ξ 一般社団法人 日本統計学会 2022年度 予算書 (2022年2月10日作成)

	2022年度 7 异省		(単位 千円)
	21年度補正予算	22年度予算	備考
I. 事業活動収支の部	▲ 10,114 ▲ 494		=収入-支出=一般勘定增減+基金積立金増減
一般勘定 学会活動積立金	494	▲ 1,358 0	
60周年記念基金	▲ 400		統計学会賞・統計活動賞・研究業績賞の副賞、学会活動補助
75周年記念基金	▲ 20		出版賞副賞
ISI基金	▲ 5,550		ISI基金は2013年度より管理
ICP基金	0		ICP基金は2013年度より管理
小川基金会	▲ 330	▲ 120	小川基金会は2014年度より管理
中村隆英基金	▲ 3,320		中村隆英基金は2020年度より管理
1. 事業活動収入	18,174	16,901	
会費収入	10,380	10,395	
名誉会員·正会員 学生会員	9,700 268		正会員8,000円(2,000円・1,000円)/年、名誉会員1,000円/年 4,000円/年
* 注	12		1,500円/年
遡及請求分	400	400	1,300 17 4
賛助法人費	845	905	
団体会員費	320	280	
科学研究費補助金	5,793	3,826	国際情報発信強化費(2019年度から2023年度まで),繰り越し分を含む
受取補助金	0	0	
受託事業収入	0		統計質保証推進協会よりの事業
雑収入	836	995	
会誌購読料	150	110	
利子収入	1	1	
広告収入 その他	585 100	755 129	 著作権許諾料等
2. 事業活動支出	28,288	21.319	19 IFTED DD 行寸
印刷費	7,950	9,100	
会誌(52巻1,2号)	4,000		2号分の印刷
英文誌	2,500		JJSDに関するSpringer Nature社業務委託
会報(191-194号)	800	800	
名簿印刷費	250		奇数年度に発行
その他印刷費	400	400	会誌・会報の封筒作成等
大会等開催費	4,900	3,640	
春季集会開催費	1,000		懇親会開催経費を含む
春季集会懇親会収入	▲ 270	<u>▲ 270</u>	マイナスの費用として計上
各賞運営経費 出版賞費	400		統計教育賞(一般勘定)、懇親会招待、表彰状副賞(60周年記念基金充当)
小川賞費	330	120	75周年記念基金充当 小川基金会充当
中村隆英賞費	3,320	2 320	中村隆英賞基金充当(賞金、懇親会招待、事務業務委託費、会合費等)
その他大会開催費	100		
研究分科会費	200		1件5万円
学 全運党全合費	410	410	,, ,,,,,
社員総会、役員・代議員協議会	170	170	会場利用料を含む
特別委員会	50	50	
統計教育委員会	20	20	
会誌編集委員会	20	20	
理事会	150	150 500	 統計教育委員会のホームページ更新、統計教育関連セミナー講師謝礼等
<u>受託事業費</u> 事務費	441	441	統計教育安員会のホームペーク更新、統計教育関連でミナー講師謝礼寺
会費徴収費	191		カード決済の手数料
一般事務人件費	40	40	
校正編集事務人件費	40	40	
発送事務人件費	100	100	
事務用品	40	40	
その他	30		事務員の交通費、収入印紙等
学会事務業務委託費	2,712		中村隆英賞費およびISI事務業務委託費を除く
通信・郵送費	2,102	2,050	
会誌送料会報送料	600 790	640 700	
	12	10	
その他通信・郵送料	700	700	
役員旅費補助	150		理事会における理事の旅費等
各種分担金	160	170	The state of the s
日本経済学会連合	35	35	
国際統計協会ISI	35	35	
横断型基幹科学技術研究団体連合	50	50	
統計関連学会連合	40	40	
男女共同参画学協会連絡会	0	10	
その他	100	100	L ドメイン使用料、学会サーバー委託費、Web名簿維持費
ネットワーク維持費 国際交流促進費	100 200	200	バイン区の付、チェソーハー安託員、WeD石海維持負
統計検定関係費	0	200	
ホームページ更新費用	50	50	
租税公課	70	70	
ISI 東京大会	5,550		ISI基金充当:事務業務委託費20万円等
国際情報発信強化費(英文誌印刷費を除く)	3,293	1,326	講演者招聘,国外学会派遣、JJSDオープンアクセス費等
Ⅱ. 投資活動収支の部	0	0	
投資活動収入	0	0	
<u>投資活動支出</u> Ⅲ. 予備養	0	0	
	5,000	4 000	支出合計に含まない

第3議案 学会賞各賞の選考委員に関する件

樋口会長より、各賞の規程に基づく会長が推薦する 選考委員として、西郷浩会員および水田正弘会員が推 薦され、審議の結果、承認された.

第4議案 理事の選任に関する件

理事(加藤昇吾,吉田靖,菅澤翔之助)が本社員総会の終結と同時に任期満了し,退任することになり,その改選の必要があるため,樋口会長より,以下のように後任の理事を選任することについて提案がなされ,審議の結果,これを承認した.

理事 小山慎介, 吉田靖, 荒木由布子 (2022年5月21日付)

報告事項 (理事会報告)

1. 賛助会員・団体会員への和文誌およびJJSDの送付 方法の変更について

大森理事長より、資料に基づき、賛助会員・団体会 員への和文誌および JJSD の送付方法の変更について報 告がなされた。

2. 賛助会員・団体会員への和文誌およびJJSD送付に 関する内規の変更について

大森理事長より、資料に基づき、賛助会員・団体会 員への学会誌送付に関する内規の変更について報告が なされた.

3. 会員の入退会

大森理事長より,回収資料に基づき,会員の入退会 について報告がなされた.

4. その他

特になし

報告事項 (委員会報告)

1. 常設委員会における委員長・委員の交代について 大森理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員 長および委員の交代について報告がなされた。

2. 常設委員会における委員の再任について

大森理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員 の再任について報告がなされた.

3. 臨時委員会「多様性推進特別委員会」の委員長・委 員の選任について

大森理事長より、資料に基づき、臨時委員会「多様 性推進特別委員会」の委員長および委員の選任につい て報告がなされた。

4. 2022年度統計関連学会連合大会について

大森理事長より、2022年9月4日(日)~8日(木)に、2022年度統計関連学会連合大会が成蹊大学にて現地および遠隔(オンライン)によるハイブリッド(ライブ)方式で開催予定であり、企画セッションとして、日本統計学会各賞授賞式および日本統計学会各賞受賞者記

念講演が予定されている旨が報告された.

5. 2022年3月開催の春季集会の報告

大森理事長より、2022年3月5日(土)に開催された 第16回日本統計学会春季集会について報告がなされた。 慶應義塾大学三田キャンパスにて、遠隔でのリアルタ イム参加も可能な形で開催された。

6. 日本統計学会各賞受賞者の紹介

樋口会長より、資料に基づき、日本統計学会各賞の 受賞者について以下のように報告がなされた。

日本統計学会賞:宮川雅巳氏. 駒木文保氏

日本統計学会中村隆英賞:若杉隆平氏, 舟岡史雄氏, 作 間逸雄氏

日本統計学会統計活動賞:一般社団法人 データサイエンティスト協会

日本統計学会統計教育賞:島根県立大学・浜田市 総務 部総務課・島根県 政策企画局統計調査課(共同受賞), 林兵馬氏

日本統計学会研究業績賞:本田敏雄氏,丸山祐造氏 日本統計学会出版賞:北川源四郎氏·竹村彰通氏·内 田誠一氏·川崎能典氏·孝忠大輔氏·佐久間淳氏·椎 名洋氏·中川裕志氏·樋口知之氏·丸山宏氏(共同受賞) 日本統計学会小川研究奨励賞:佃康司氏,入江薫氏, 石井晶氏,矢野恵佑氏

7. 2023年 ISI 大会に向けた ISI 東京大会記念奨励賞の 募集開始について

川崎委員長 (ISI 東京大会記念基金運営委員会) より, 2023年 ISI 大会に向けた ISI 東京大会記念奨励賞の募集 開始について報告がなされた.

8. その他

特になし

報告事項 (その他)

1. 各種委員会からの報告

学会組織特別委員会からは特に報告すべき事項はない旨が報告された.

学会活動特別委員会の南委員長より、資料に基づき、 学会の理事・委員選出における問題点とその対策について委員会で議論した結果を理事会に答申し、その結果として臨時委員会「多様性推進特別委員会」の設置、 男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー加盟が理事会で承認され実現したことが報告された。

多様性推進特別委員会の南委員長より、資料に基づき、 女性統計家・データサイエンティスト育成支援分科会 主催のシンポジウムと春季集会での企画セッションの 開催に協力したことが報告された。また、今年9月開 催予定の統計関連学会連合大会で、委員をオーガナイ ザーとする企画セッションを開催予定である旨が報告 された.

統計教育委員会の竹内委員長より、資料に基づき、統計教育に関する資料の公開、統計教育に関係する情報発信、理数系学会教育問題連絡会への参加、統計教育分科会と連携し統計関連学会連合大会でのセッションの企画、ワークショップへの開催協力、スポーツデータサイエンス分科会主催の「中高生・スポーツデータ解析コンペティション―2021―」の審査協力等を行なっ

たことが報告された.

2. 次回日程等

大森理事長より、次回の役員・代議員協議会を2022年 9月4日(日)18:30より開催する予定であるとの報告 がなされた。

3. その他

特になし

15. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を原稿到着順に紹介いたします. (1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に掲載いたします.

博士論文

- (1) 斎藤哲雄 (2) 博士 (医学バイオ統計学) (3) 久留米大学 (4) Influence of pain duration on pain outcomes following palliative radiotherapy for painful tumors: the sooner the irradiation, the better? (5) 室谷 健太 (6) 2022年 3 月
- (1) 杉山高聖 (2) 博士 (理学) (3) 東京理科大学 (4) Estimation of threshold parameter and shape parameter for three-parameter Weibull distribution (3-母数ワイブル分布の位置母数と形状母数の推定) (5) 瀬尾 隆 (6) 2022年 3 月

修士論文

● (1) 石丸悠子 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学

(4) NAFLD/NASH 合併 2 型糖尿病における選択 的 SGLT2阻害剤イプラグリフロジン投与と骨格 筋脂肪との関連 (5) 古川恭治 (6) 2022年 3 月

- (1) 古賀龍彦 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) ケースオンリーデザインを用いたインシデントレポートの解析 (5) 室谷健太 (6) 2022年 3 月
- (1) 古賀隆一郎 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 外傷性脊髄損傷患者の ADL に対するリハビリテーション治療介入効果の検討 (5) 角間辰之 (6) 2022年 3 月
- (1) 松本康一郎 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 複数の連続変数を主要評価項目としたランダム化比較試験における多重比較法の性能比較 (5) 室谷健太 (6) 2022年 3 月
- (1) 吉野千代 (2) 修士 (医科学) (3) 久留米大学 (4) 学内成績による臨床検査技師国家試験点数の予測モデルの作成 (5) 大山哲司 (6) 2022年 3 月

16. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲載します.

●日本統計学会編『日本統計学会公式認定 統計 検定統計調査士対応 経済統計の実際』東京図書株 式会社,2022年4月,3,080円(税込) 内容紹介:統計に関する基本的知識と利活用が問われる統計調査士試験対策用の待望のテキスト. 巻末にはCBT模擬問題・解答も掲載.

17. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します.

●室井芳史『Computation of Greeks Using the Discrete Malliavin Calculus and Binomial Tree』Springer, 2022 年 4 月,冊子体:49.99ユーロ

内容紹介:本来,連続時間の確率モデルで定義されるマリアバン解析を離散時間モデルにおいて構成を試みた.ファイナンスや統計学で利用を考える初学の学生や実務家がマリアバン解析を学ぶ契機となるよう心掛けて執筆をした.

18. 受賞紹介

会員からの投稿による各種受賞の紹介記事を掲載します.

●令和4年春の叙勲 瑞宝中綬章 受賞者:藤越康祝(広島大学名誉教授)

19. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2022年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。(https://www.jss.gr.jp/fee/)。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに,氏名と住 所を以下にお伝えください.手続きに必要な書類 が送付されます.

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738 E-mail : shom@jss.gr.jp

入会承認

伊藤ゆり,鬼塚貴広,書川侑子,川西琢也,岸村遼,郡山拓也,下清水慎,鈴木進之介,髙橋昂,田坂理英子,多田糸織,趙宇,中田新大,中西正,中根良樹,中村咲太,深谷良治,渕上豪支,牧嶋孝樹,三尾育摩,森西美光,山下由依亜(敬称略)

退会承認

大澤秀磨,小田秀匡,片岡正昭,金子亮介,熊澤吉起,顧艷紅,後藤文廣,指田隆一,定明子,佐藤寛司,佐藤昌道,下村真生,杉山浩平,鈴木一平,陳いつ,長畑秀和,中村洋一,南雲朗活,西森千博,橋本修二,長谷川光,平井安久,福井幸男,渡邊隼史(敬称略)

長期連絡不能により退会したとみなされた会員

浅野千恵, 稲葉敏夫, 井上嵩浩, 岩倉相雄, 江原 斐夫, 大澤篤史, 貝瀬徹, 笠原博幸, 金谷太郎, 下川智幸, 杉山太香典, 鈴木佑輔, 須藤慶大, 谷 本信, 富高辰一郎, 西川哲夫, 萩原章嘉, 櫨木伸 吾,濱元淳子,藤田里亜菜,谷内正文,山本英二 (敬称略)

現在の会員数(2022年5月7日)

名誉会員14名正会員1,366名

準会員9名学生会員47名総計1,436名賛助会員17法人団体会員8団体

20. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益である と考えられるものなどについて原稿をお送りくだ さい、以下のような情報も歓迎いたします.

- ●来日統計学者の紹介 訪問者の略歴,滞在期間,滞在先,世話人など をお知らせください.
- 博士論文・修士論文の紹介

 (1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文
 題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。
- ●求人案内(教員公募など)
- ●研究集会案内
- ●新刊紹介

著者名,書名,出版社,税込価格,出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし、主観的な表現は避けてください。

●会員活動紹介(叙勲・受章,各種受賞等) できるだけ e-mail による投稿,もしくは、文書 ファイル(テキスト形式)の送付をお願い致しま す.

原稿送付先:

₹186-8603

東京都国立市中2-1

一橋大学 経済研究所 中島 上智 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL: https://www.jss.gr.jp/
- 統計関連学会ホームページ URL: http://www.jfssa.jp/
- 統計検定ホームページ URL: https://www.toukei-kentei.jp/
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス: meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス: koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス: shom@jss.gr.jp